

必修テーマ【古文】

入試頻出ジャンル 世俗説話

テーマを学ぶ意義

「世俗説話」とは

説話集は、伝説や実話などを素材にした話を編纂したもので、仏教説話と世俗説話に大別される。今回扱うのは、あらゆる階層の主人公が珍談・奇談を繰り広げる世俗説話である。代表的な出典は以下の二つ。

・『今昔物語集』……「今は昔」となむ語り伝へたるとや」という一話完結型の語りのスタイルで、収録話数は千を超える。日本のみならず中国・インドを舞台とする話も多数収録されている。

・『宇治拾遺物語』……内容・スタイルともに『今昔』と共通する点が多々ある。笑いの要素が大きな特徴。

その他、『江談抄』『古本説話集』『古事談』『十訓抄』『古今著聞集』などが主要な出典。

入試頻出の理由

説話はストーリー展開がはっきりしているため、内容把握の設問が作りやすい。登場人物の関係やできごとの展開を正確に読み取る力を見られている。

到達目標

■頻出パターンを押さえ、話の展開を考えて読めるようになる！

説話には典型的な展開パターンがある。1 知恵と機転／難題解決型
／2 奇怪な事件／怪奇話／3 歌の効用／歌徳説話／4 愚かな行動／滑稽話の四分類をまず押さえ、意識して読解しよう。

1 知恵と機転／難題解決型

1 難問・難題に直面／ピンチに遭遇

【例】(帝の怒りに触れて帝から難題を出される)

2 知恵を働かせる／機転を利かせる

3 難題を解決／ピンチを切り抜ける／危機を回避する

【例】(難題をみごとに解いて見せて、帝の怒りも解ける)

このパターンでは、登場人物が**実名**で示されることも多い。

語られている内容の現実味が増す。

2 奇怪な事件／怪奇話

1 怨霊や妖怪が登場して不気味な事件を引き起こす

登場人物が、怨霊や鬼や妖怪に出会って怖い体験をする

2 怨霊や妖怪のために登場人物が命を落とす

※逆に、主人公が知恵や勇気を発揮して、怨霊や妖怪を退散させる、という展開もある

・このパターンでは、事件の異常さ・怪奇性が第一のポイント。

登場人物が、どんな行動をしたか、どう反応したかが第二のポイント。

登場人物や舞台が具体的に固有名詞で示されることが多い。

=

怪奇話に現実味を持たせる効果。

3 歌の効用 〈歌徳説話〉

1 すぐれた和歌が神仏や人を感動させる（和歌の代わりに漢詩の場合もある）

←

2 そのおかげで、様々な幸運が舞い込んでくる。たとえば……

- ・ 厳しく罰せられるはずが、罪を許される
- ・ 禄（褒美）を得る
- ・ 官位を与えられる・昇進する・立身出世する
- ・ 離れた恋人（夫、妻）の愛を取り戻す
- ・ 病気が治る・命が助かる

作者は、高名な歌人の場合もあるが、むしろ下級役人や農民など無名のアマチュアの場合も多い。

=

展開に意外性が付け加わる。

4 愚かな行動 〈滑稽話〉

1 人々の笑いを誘い、教訓を与える滑稽話や失敗談
失笑や嘲笑を引き起こす愚かな行為

←

2 本人が真面目であるほど、愚行の滑稽さが増幅される

※愚行の主が僧や聖なら

① 社会的信用や人望がある人が愚行を演じる

② こんなことをするのか？こんなことをしていいのか？

↓ 周囲の疑問・反発

③ 表向きの顔とは違う人物像が暴露される

↓ 裏の顔が明らかになり、社会的な権威が失墜する

④ 笑いが失笑・嘲笑に変わる

↓ 嘲笑は愚行に対する批判にもなっている

説話で取り上げられる僧の対照的な姿Ⅱ説話の世界の多様性・広さ・深さを表す。

・ 超人的な力（霊力・法力）を発揮する高僧や修行者

⇔

・ 愚行に走る僧や聖

読解のポイント

1 問題読解は「リード文」から始まる

- ・問題文に付けられているリード文や注は、読解の大きなヒントになる。
- ・特に章段全文が掲載されていない場合には、リード文にストーリーや場面・登場人物についての説明・解説が書かれているので、まずリード文の内容をしっかりと把握することが問題読解の第一歩。

2 ストーリーのパターンを見極める

- ・パターンを把握することで読解の焦点を合わせることができる。
- ・問題文は難題解決型に当たるのか、怪奇話なのか、それとも歌徳説話か、全体の構成を把握して見極めよう。

3 ストーリー展開を押さえる

- ・展開パターンの基本を参考に物語の進行の大筋をつかむ。
- ・説話では登場人物の精密な心理描写よりもストーリー展開に重点が置かれているため、具体的な出来事の叙述が中心になる。話のオチ・面白さのポイントをつかむことが大切。

4 難題解決型なら

- ・どんな難題・難問か、それを出したのは誰か、出されたのは誰か、どうやって解決したかを押さえることがポイント。

5 歌徳説話なら和歌の読解がポイント

- ・歌徳説話は、あくまでも歌の効用を語るためのストーリーなので、物語の展開と歌の内容を重ね合わせて読み取ることが大切。
- ・誰が、どんな場面で、どんな歌を作ったか、その歌はどんな効果を発揮したかを押さえる。
- ・歌が効果を発揮する（相手を感動させる・納得させる）ためには、①歌が場面にぴったりはまっている（要求された課題に、きちんと応えている）
- ②巧みな仕掛けを使っている（修辞技巧、特に掛詞などが優れている）
- などの要素を充たしていることが必要。

6 滑稽話なら、笑いのツボを押さえる

- ・ストーリーや登場人物がとった行動の、どこが面白いのかを考えて読む。

7 登場人物の言動に注目する

- ・説話では登場「人物」は人間とは限らない。動物・怨霊・妖怪なども登場「人物」として出てくる。
- ・中心となる人物（＝主人公）の行動がストーリーの柱になっているので、主人公の言動に注目してストーリーを読み進める。

8 末尾の筆者のコメント・評言にも注意

- ・末尾に、筆者の話題に対する評価が記されることがある。肯定的評価なのか、否定的評価なのか、不審・不可解の念のか押さえる。

☑ チェックテスト

次の文章は、『宇治拾遺物語』の一節である。ある時、道で出会った孔子と童が問答を交わした場面であるが、これを読み、あとの問に答えよ。

今は昔、唐に、孔子、道を行き給ふに、八つばかりなる童あひぬ。孔子に問ひ申すやう、「日の入る所と洛陽と、いづれか遠き」と。孔子いらへ給ふやう、「日の入る所は遠し。洛陽は近し」。童の申すやう、「日の出で入る所は見ゆ。洛陽はまだ見ず。されば日の出づる所は」**A**。洛陽は**B**と思ふ」と申しければ、孔子、**C**かしこき童なりと感じ給ひける。「孔子には、かく物問ひかくる人もなきに、かく問ひけるは、ただ者にはあらぬなりけり」とぞ人言ひける。

問一 空欄 **A**・**B** に最適な語を、それぞれ文中から抜き出して補え。

A 「 」 **B** 「 」

問二 傍線 **C** の理由の説明として最適なものを次の中から選び、記号を○で囲め。

A 無学な童が、有名な孔子を相手に遠慮もせずに質問したから。

イ 童の質問が、いかにも子どもらしい素朴なものであったから。
ウ 童が常識を逆転させた新鮮な発想で答えを示したから。

エ 童の質問が、孔子が抱いていた疑問と偶然一致していたから。

解答

問一 **A** 近し **B** 遠し

問二 **ウ**

解説

本文は、パターン1の「難題解決型」の説話である。「日の入る所と洛陽」のどちらが遠いか近いか、という点が「難題」にあたる。そして、童の柔軟で新鮮な発想が知恵者・孔子を感じさせるほどの「名解答」であった、という点がこの説話の核心になる。

問一は、難題に対して童が示した解答に関する設問である。問二は、難題解決というポイントを押さえれば孔子が感心した理由も見えてくる。

全訳

今から言えば昔のことだが、中国で、孔子が、道歩いておられると、八つぐらいの子どもが行き会った。孔子に（次のように）質問して申し上げるには、「日の入るところと洛陽と、どちらが遠いですか」と。孔子は（こう）お答えなさるには、「日の入るところは遠い。洛陽は近い」。（すると）子どもは（こう）申し上げるには、「日が出たり入ったりするところは見えます。洛陽はまだ見たことがありません。だから、日の出るところは近い。洛陽は遠いと思います」と申し上げたので、孔子は、賢い子である、と感心なさった。「孔子に（対して）は、このように質問する人もいないのに、このように質問したのは、並みの子どもではないのだなあ」と人々は言い合ったそうだ。

XLAP3A-Z1A2-01

次の文章を読み、あとの問に答えよ。

(50点)

1 これも今は昔、*民部大輔篤昌みんぶのだいふあつまさといふ者ありけるを、*法性寺殿ほふしやうじの御時、*藏人所ぞうじんしよの所司に、義助よしすけとかやいふ者あり

けり。くだんの篤昌を*役に催しけるを、「1われは、かやうの役はすべき者にもあらず」とて、参らざりけるを、所司、小舎人こどねりをあまたつけて、苛法かほふに催しければ、参りにけり。さて、まづ、所司に「もの申さん」と呼びければ、出であひけるに、この世ならず腹たちて、「かやうの役に催し給ふは、いかなることぞ。まづ篤昌をば、いかなる者と知り給ひたるぞ。

5 承らん」と、しきりに責めけれど、しばしはもの言はでゐたりけるを、叱しかりて、「のたまへ。まづ、2篤昌あつまさがありやうを承らん」と、いたう責めければ、「3別のこと候はず。民部大輔五位の、鼻赤きにこそ知り申したれ」と言ひたりければ、

「をう」と言ひて逃げにけり。

また、この所司があたりける前を、忠恒ただつねといふ隨身、4異様ことやうにて練り通りけるを見て、「*わりある隨身の姿かな」と忍びやかに言ひけるを、耳とく聞きて、隨身、所司が前に立ち帰りて、「わりあるとは、いかにのたまふことぞ」と咎とがめければ、「われは、人のわりのありなしもえ知らぬに、ただ今、武正たけまさ*府生ふしやうの通られつるを、この人々、『5わりなき者

の様体やうたいかな』と言ひあはせつるに、すこしも似給はねば、さてはもし、わりのおはするかと思ひて、申したりつるなり」と言ひたりければ、忠恒「をう」と言ひて逃げにけり。

この所司をば、「6荒所司」とぞつけたりけるとか。

(『宇治拾遺物語』より)

注 *民部大輔Ⅱ民部省(戸籍・租税などを管轄した役所)の次官。

*法性寺殿Ⅱ藤原忠通。

*藏人所の所司Ⅱ「藏

XLAP3A-Z1A2-02

人所」は、蔵人（天皇の側近）が執務した役所。「所司」「小舎人」はそこで働く職員。 * 役Ⅱ 夫役・労役。 * わりあるⅡ 「わりなし」の対義語として、所司が即興で作った語。 * 府生Ⅱ 衛府（えふ 宮中を護衛し、行幸・行啓の供奉などをつかさどった役所の総称）の下級武士。

問一 傍線1、「篤昌」はどのようなことを言おうとしたのか、説明せよ。 (7点)

問二 傍線2～4を口語訳せよ。 (18点)

問三 傍線5について、次の(i)・(ii)に答えよ。

(i) 傍線5とあるが、どういうことか、説明せよ。 (7点)

(ii) 所司はなぜ「わりある随身の姿かな」と言ったのか、説明せよ。 (8点)

問四 傍線6「荒所司」というあだ名にはどのような意味が込められているのか、説明せよ。 (10点)

問題

次の文章を読み、あとの問に答えよ。

(50点)

☑ チェック

1 これも今は昔、*民部大輔篤昌みんぶのだいふあつまさといふ者ありけるを、*法性寺ほふしやうじの御時、*蔵人所ぞうじんの所司よしすけに、義助とかやいふ者あり

けり。くだんの篤昌を*役に催しけるを、「1 われは、かやうの役はすべき者にもあらず」とて、参らざりけるを、所司、小舎人こどねりをあまたつけて、苛法かほふに催しければ、参りにけり。さて、まづ、所司に「もの申さん」と呼びければ、出であひけるに、この世ならず腹たちて、「かやうの役に催し給ふは、いかなることぞ。まづ篤昌をば、いかなる者と知り給ひたるぞ。

問一・問二

5 承らん」と、しきりに責めけれど、しばしはもの言はでるたりけるを、叱りて、「のたまへ。まづ、2 篤昌あつまさがありやうを承らん」と、いたう責めければ、「3 別のこと候はず。民部大輔五位の、鼻赤きにこそ知り申したれ」と言ひたりければ、

問一

「をう」と言ひて逃げにけり。

また、この所司がゐたりける前を、忠恒ただつねといふ隨身、4 異様ことぎやうにて練り通りけるを見て、「*わりある隨身の姿かな」と

忍びやかに言ひけるを、耳とく聞きて、隨身、所司が前に立ち歸りて、「わりあるとは、いかにのたまふことぞ」と咎め

問三(i)

ければ、「われは、人のわりのありなしもえ知らぬに、ただ今、武正たけまさ*府生ふしやうの通られつるを、この人々、5 わりなき者

問三(ii)

の様体やうたいかな」と言ひあはせつるに、すこしも似給はねば、さてはもし、わりのおはするかと思ひて、申したりつるなり」と

と言ひたりければ、忠恒「をう」と言ひて逃げにけり。

この所司をば、「6 荒所司」とぞついたりけるとか。

(『宇治拾遺物語』より)

注 *民部大輔Ⅱ民部省(戸籍・租税などを管轄した役所)の次官。

*法性寺殿Ⅱ藤原忠通。

*蔵人所の所司Ⅱ蔵

問三 文脈を押さえる

問四 人物の行動や発言から文章の展開を理解する

人所」は、藏人（天皇の側近）が執務した役所。「所司」「小舎人」はそこで働く職員。 * 役Ⅱ夫役・労役。 * 問Ⅲ
 りあるⅡ「わりなし」の対義語として、所司が即興で作った語。 * 府生Ⅱ衛府（宮中を護衛し、行幸・行啓の供奉
 などをつかさどった役所の総称）の下級武士。

問一 傍線1、「篤昌」はどのようなことを言おうとしたのか、説明せよ。

(7点)

問二 傍線2～4を口語訳せよ。

(18点)

問三 傍線5について、次の(i)・(ii)に答えよ。

(i) 傍線5とあるが、どういうことか、説明せよ。

(7点)

(ii) 所司はなぜ「わりある随身の姿かな」と言ったのか、説明せよ。

(8点)

問四 傍線6「荒所司」というあだ名にはどのような意味が込められているのか、説明せよ。

(10点)

出典

『宇治拾遺物語』六十二「篤昌・忠恒等の事」

『宇治拾遺物語』は、十三世紀前半に成立したとされる、編者不詳の説話集。内容は、仏教説話・世俗説話・民間説話などだが、全体的に教訓性は薄く、面白みや笑いの要素が強い点が特徴である。

解答

問一 自分は民部大輔五位であって、労役などをするような身分では

ないから拒否する、ということ。

問二 2 篤昌がどのような身分の者とお考えなのかをうかがいたい

3 特別なことはございません

問Ⅲ
 注を踏まえて登場人物の状況を押さえる

問一
 指示内容など文脈から適切な語を補って解釈する
 問二
 助詞・助動詞・敬語などの細部に注意して訳す

XLAP3A-Z1C2-03

4 風変わりな格好で悠々と通った

問三 (i) 武正府生の様子がすばらしかったのを、人々がほめたということ。

(ii) 忠恒が、「わりなし」という武正のすばらしい様子とは正反対だったため「わり」が「なし」とは反対の「ある」と言った。

問四 どのような相手に対しても物怖じせず、相手を言い負かしてしまいうまい所司、という意味。

解説

今回の文章の概要

義助という所司が、男二人を話術で言い負かす

◎民部大輔篤昌の場合

・民部大輔篤昌が労役の召集に応じなかったため、所司が厳しくせきたてて参上させた

・篤昌は立腹し、「自分は労役を課されるような身分ではない」「この私がどのような身分とされているのかがいたい」と所司を責めた
・所司は「民部大輔五位で、鼻が赤い方だとは存じております」と返事をした

・篤昌は「おう」と言って逃げ出してしまった

◎隨身忠恒の場合

・所司の前を、忠恒が変わった格好をして通り過ぎたところ、所司は「わり、ある、隨身の姿だなあ」と言った

・忠恒は「わり、ある、とはどのような意味だ」と所司を問いただした

・所司は「人々が、武正府生に対して『わりなくすばらしい武者の様子だ』と言いつけていたが、あなた(II 忠恒)はそれに少しも似ていないので、わりが、ありかと思つて申し上げた」と返事をした
・忠恒は「おう」と言って逃げ出してしまった

↓人々は所司を「荒所司」と名づけた

☑ 指示内容など文脈から適切な語を補つて解釈できたか

問一 傍線部は直訳すると「**わしは、このような「役」はするような身分でもない**」となる。「役(やく・えき)」は、人々を公用の労働に使うこと。また、割り当てられた公の労務。したがって、対象は主に一般人民である。ところが「われ(II 篤昌)」は「民部大輔(II 民部省の次官)五位」(I 6)の身分であるため、それがどのような夫役であれ、夫役などというものは**自分のような身分の者のすることではない**、と拒否したのである。

☑ 助詞・助動詞・敬語などの細部に注意して訳せたか

問二 2 「篤昌」とは自分のことで、「ありやう」は「様子・状態」の意。「承らん」は、「聞く」の謙譲語「承る」の未然形「承ら」に、意志の助動詞「ん」の終止形がついたもの。「ん(む)」には他に、「推量・適当・勧誘・婉曲・仮定」などの意味があるが、ここは主語が一人称(篤昌)なので、篤昌の意志を表す。〈自分の様子を相手に聞きたい〉と言っているのは、つまり〈相手が自分をどのような身分の者

だと思ってるのか聞きたい」ということで、4～5の「篤昌をば、いかなる者と知り給ひたるぞ。承らん」を言い換えたものである。ここを参考にして訳出しよう。

3 「別のこと」は〈特別なこと・とりたてて言うべきこと〉で、「候はず」は、「あり」の丁寧語「候ふ」の未然形「候は」に、打消の助動詞「ず」の終止形がついたもの。よって〈特別なことはございません〉という訳になる。ここは、身分をかさにきて命令を断ってきた篤昌に対し、所司は篤昌の身体的特徴を指摘してやりこめたのである。

4 「異様にて」は、形容動詞「異様なり（＝普通と違って）る・風変わりだ」の連用形「異様に」に、接続助詞「て」がついたもの。続く「練り通りける」を修飾するので、〈風変わりな格好で〉と言葉を補おう。「練る」は〈ゆつくりと（行列を作ったりして）進む〉〈ゆつくりともったいぶって歩く〉という意。つまり、普通の歩き方ではなく、自分の異様な風体を誇示しながらゆつくりと歩いていたのだ。ここで、「にて」の識別についてまとめておく。

「にて」の識別

①格助詞「にて」

↓体言・連体形に接続。〈～で・～の時に（場所・時）〉〈～で・～によって（手段・方法）〉〈～ので・～によって（原因・理由）〉などと訳出。

②断定の助動詞「なり」の連用形＋接続助詞「て」

↓体言・連体形に接続。〈～であって〉と訳出。

③ナリ活用形容動詞の連用形活用語尾＋接続助詞「て」

↓形容動詞の語幹に「～な」とつけることができる（「異様にて」は「異様な」とすることができ）ので、「異様なり」の連用形活用語尾。〈～で〉と訳出。

④完了の助動詞「ぬ」の連用形＋接続助詞「て」

↓連用形に接続。「にて候ふ」「にて侍り」の形になることが多い。〈～てしまつて〉と訳出。

☑ 文脈を押さえられたか

☑ 注を踏まえて登場人物の状況を押さえられたか

問三 (i) 「わりなし」は、基本的には「ことわり（理）なし」、すなわち〈道理に外れている・筋道が立たない〉という意味である。そこから、〈どうしようもない・無理だ・困る・つらい〉といった困惑の気持ち、また、〈並外れてひどい・悪い〉、反対に〈並外れてすぐれている・すばらしい・美しい〉などの程度のはなはだしいことを表す用法が生じてきた。

さて、傍線部の「わりなし」の意味だが、風変わりな格好をして「わりある隨身」と言われた忠恒が、その理由を知って逃げ出していることから、「わりあり」は悪い意味、反対の「わりなし」は良い意味だと推測できる。よって、**武正の身なりが〈並外れてすぐれている〉**といったプラスの意味がふさわしく、傍線部を直訳すると「**すばらしい武者の様子だなあ**」と言ひ合つた」となる。解答にあたっては、**人々が（武正の様子を）ほめた**という内容も加えるといよい。

(ii) 傍線部直後の「すこしも似給はねば……わりのおはするかと

思ひて、申したりつるなり（Ⅱ（武正の様子にあなたは）少しも似ていらつしやらないから……わりがお、ありなのかと思つて、申したのだつた）をもとに考え、解答をまとめよう。「わりなし」というすばらしい様子の武正に対して、忠恒が正反对の様子だったので、「わりがある」と言ったのである。

☑ テーマ問題 人物の行動や発言から文章の展開を理解できたか

問四 二つのエピソードを通して、「荒」の意味を考えよう。

「荒」は一般に、〈荒々しい・勢いが激しい・乱暴だ〉などの意味があるが、所司の場合は暴力をふるっているわけでもないし、「荒」が否定的な悪い意味で使われている様子でもない。最初のエピソードの篤昌は、民部大輔五位という身分を誇示してきたが、所司は平然として「別のことはせず」と受け流し、さらに、赤鼻のことを容赦なく指摘して追い払ってしまう。一方、変わり者の忠恒に対しては、「わりある」という皮肉をこめた言葉でやりこめて退散させている。どのような種類の人間を相手にしても一歩も引かず、きつい言葉で急所を突いてやつつけてしまう——そのような所司の強力な弁舌に、人々は〈勇猛・勇ましい〉といった意味も込めて「荒所司」とあだ名したのである。ここでの「荒」は否定的な意味は強くない。

☑ 必修テーマを確認 「頻出パターン1 知恵と機転」＋「頻出パターン4 愚かな行動／滑稽話」に当てはまる。登場人物の言動に注目して、物語の展開をつかもう！

全訳

これも今となつては昔の話で、民部大輔篤昌という者がいたが、法性寺殿の御治世中、藏人所の所司に、義助とかいう者がいた。上述の篤昌を夫役に召集したが、「「わしは、そのような夫役はするようない身分でもない」と云つて、参上しなかつたので、所司が、小舎人を大勢つけて、厳しくせきたてたところ、参上したのだつた。そして、まず、所司に「申したいことがある」と声をかけたので、出て対面したところ、たいそう腹を立てて、「このような夫役に召集なさるとは、どういふことか。まずこの篤昌を、どのような（身分の）者とお考えなのか。うかがいたい」と、しきりに責め立てたが、（所司は）しばらくはものも言わずに座っていたので、叱つて、「口をきかれよ。まず、2（この）篤昌の様子（Ⅱ篤昌がどのような身分の者とお考えなのか）をうかがいたい」と、ひどく責め立てたところ、「3特別なことはございません。民部大輔五位で、鼻が赤い方だと存じております」と言つたので、（篤昌は）「おう」と言つて逃げてしまった。

また、この所司が座っていた前を、忠恒という隨身が、4風変わりな格好で悠々と通つたのを見て、「わりある、隨身の姿だなあ」とこつそり言つたのを、耳ざとく聞きつけて、隨身は、所司の前にたち戻つて、「わりあるとは、どのような意味でおっしゃつたのか」と問いただしたところ、「わしは、人のわりのあるなしもよく知らないが、たつた今、武正府生が通られたのを、ここの人々が、『すばらしい武者の様子だなあ』と言ひ合つたけれども、「（武正の様子にあなたは）少しも似ていらつしやらないから、それではもしかしたら、わりがお、あ

XLAP3A-Z1G2-06

りなのかと思って、申し上げたのだった」と言っただので、忠恒は「おう」と言っただけで逃げた。

(人々は) この所司を、「6 荒所司」と名づけたとかいう話である。

まとめ

- ・ 指示内容など文脈から適切な語を補って解釈する
- ・ 助詞・助動詞・敬語などの細部に注意して訳す
- ・ 文脈を押さえる
- ・ 注を踏まえて登場人物の状況を押さえる
- ・ 人物の行動や発言から文章の展開を理解する

二 XLAP3A-Z1C2

1
6 / 7

問一

わたしは 貴い役職 に就いている人間なので、
そのような仕事は 適していない、ということ。
→ 役の言い換えはできているので、
「低級な仕事」であると伝わる
ように工夫しよう。①

2
9 / 18

問二

この私が どんな人物 なのかもお話ししたい。
→ 人柄なども含むような表現に
なっている。「身分」より具体
化できるところによい。②
→ 承るは聞きの謙譲語なので、
「お聞きしたい」と訳出しよう。②

5 / 5

3

特別な事情は ございません。

1 / 6

4

「篤言」がいつもの格好で練り歩いていく。
→ 異様であるのは
念恒という隨身。③
→ 異様は普通とは違っている様子。
変な姿・風変わりなどの意で訳出する。③
→ けるは過去の助動詞なので、
「練り歩いた」と訳出する。①
傍線部は文中にあるので、句点は不要。①

3
5 / 7

問三

△ (i) "

格別にすぐれた様子だと、人々に言われたこと

「わりなき者」として、
武正を押さえる。⑦

文脈に合わせて、「ほめた」という内容に
するとよらい。⑧

説明問題なので文末に
句点が必要。⑦

4
7 / 8

△ (ii) "

忠恒という随身が立派な武生とは似ていなかったこと。

「正」が正しい。
誤字。⑦

ここは正反對である点を
明確にした方がよい。⑧

5
6 / 10

問四

身分の高い人も、驚かせ慌てさせてしまう大胆で、威勢のいい人物。

二つのエピソードに共通する事柄として、
「弁舌」や「相手」を「やり込めていく」点も
押さえる。⑦

〈必修テーマの確認〉

〈荒れが寝の言葉である〉というこの設問で一番大切な点を理解できている。
あとはどこを変えればよりよくなるのか、添削答案を見ながら復習しよう。